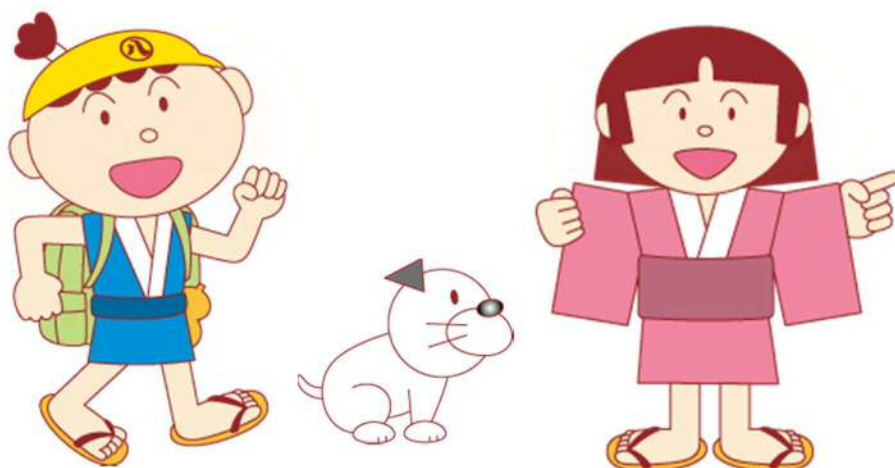


なかむらくさいがいじょうはいりょしゃ
中村区災害時要配慮者 (障害児者)

しえん
支援ガイドブック



ひよしまる
日吉丸

あさひひめ
旭姫

なかむらくやくしよ
中村区役所

なかむらくじりつしえんれんらくきょうぎかい
中村区自立支援連絡協議会

はじめに

近年、南海トラフ巨大地震の発生が危惧されており、地震が発生すれば本市でも甚大な被害が出るのが想定されています。発災時には被災をされた多くの方が自宅を離れて避難所での生活を余儀なくされ、また、発災後数日間行政の支援も行き渡らないことが予想されます。そういった中では地域の皆さんによる自主的な避難所運営が重要な役割を果たすこととなります。

東日本大震災など過去の災害時もそうですが、避難所では発災直後大混乱になる恐れがあります。そして避難者の中には、高齢者、障害者、妊婦の方など、その人に応じた配慮を速やかに行なわなければ避難所での生活が困難になってしまう方がいます。

こうした中、各障害者団体や施設、民生委員代表、行政機関等で構成する中村区自立支援連絡協議会では、防災に関する話し合いを重ね、平成28年3月に、災害時に障害児者の方を支援する本ガイドブックを作成しました。

本ガイドブックは、区内避難所等に配置するとともに、関係者の方や当事者の方にも配布してまいりましたが、このたび、ヘルプマーク等の情報を追加したうえで、増刷することとなりました。

このガイドブックは、障害児者の皆さんが避難所で出来るだけ不安なく生活が出来よう、地域の皆さんにご配慮いただきたいことのポイントをまとめています。また、被害を最小限にするためには日頃の備えが重要になってきます。障害児者ご自身や家族の方が日頃から備えていただくことについても、それぞれの障害ごとにまとめています。

中村区では、安心して暮らせる安全なまち、いきいきと暮らせる「支え愛」のまちを目指し、助け合いの仕組みづくりを進めています。災害の時に地域の支援が必要な方が「どこに住んでいるか」「どのように安否を確認するか」「どのように救出するか」「どのように避難誘導するか」を前もって地域で話し合い、助け合いの仕組みを作っておくことが重要になってきます。このガイドがそうした仕組みづくりの推進のきっかけになればと強く願っています。

平成31年3月

名古屋市中村区長 窪田昌直

この冊子^{さっし}は、こんな時^{とき}に役立^{やくだ}ててください。

- 避難所^{ひなんじょ}で障害児者^{しょうがいじしゃ}が困^{こま}っていて、その手助^{てだす}けをするとき

- 障害児者^{しょうがいじしゃ}、その家族^{かぞく}、関係者等^{かんけいしゃとう}が日頃^{ひごろ}の備^{そな}えをするとき

目次

第1章	避難所での配慮事項（各障害別）	
	・避難所での配慮事項（すべての障害共通）	2
	・視覚障害児者の場合	4
	・聴覚障害児者の場合	6
	・肢体障害児者の場合	8
	・内部障害児者の場合	10
	・知的障害児者の場合	12
	・発達障害児者の場合	14
	・精神障害児者の場合	16
	・SOSカード	18
	・トピックス：用語説明	20
	・ヘルプカード・ヘルプマークについて	21
第2章	日頃の備え（各障害別）	
	・障害児者の日頃の備え（すべての障害共通）	24
	・視覚、聴覚障害児者の日頃の備え	26
	・肢体、内部障害児者の日頃の備え	27
	・知的、発達障害児者の日頃の備え	28
	・精神障害児者の日頃の備え	29
第3章	被災地での助け合い事例	
	・2011年3月11日 東日本大震災 いのちの体験集 （特定非営利活動法人レスキューストックヤード 発行）	32
	・名古屋市保健師	36
第4章	避難所生活の実態：抜粋（レスキューストックヤード）	37
第5章	災害時要配慮者支援ガイド作成会議出席者の声	45
巻末	関係機関連絡先・参考文献	49